別表1

令和９年度　拠点間連携共同研究（重点推進研究）　一覧表

課題番号 カテゴリー名 研究課題名	代表者	研　究　内　容
2024－K－1－1 重点推進研究 （総括型） 「巨大地震のリスク評価の不確実性に関するパラダイム構築の推進」	加藤　尚之 （東大地震研） 松島　信一 （京大防災研）	重点推進研究（総括型）では、巨大地震発生時の災害リスク評価の不確実性を明確にすることを目標とします。そのためには、（1）まず各研究分野における知見・モデルの不確実性を定量化し、（2）それらの不確実性を考慮できるリスク評価の枠組みを構築した上で、（3）どの不確実性要因が全体のリスク評価の不確実性に寄与しているかを明らかすることが必要です。この基本的な評価の枠組みを構築することを目標として、（1）～（3）について検討し、現時点でのリスク評価の不確実性を評価して公に共有するための研究を推進します。
2026－K－1－2－6 重点推進研究 （特定型） （その 6） 「高性能計算科学による地震シミュレーション高度化に関する研究」	市村　強 （東大地震研）	昨今の時空間データの蓄積及び計算機能力の向上を踏まえた、高性能計算を活かした計算科学（高性能計算科学）により、従来より高詳細なシミュレーションモデルを用いた大規模コンピューター・シミュレーションが可能となりつつある。本研究課題では、高性能計算科学により、「地震を起因とする災害に寄与する一連の事象」を対象としたシミュレーションの高度化を目指した研究を行います。
2027－K－1－2－7 重点推進研究 （特定型） （その 7） 「活断層の連動・連鎖による大規模内陸地震の発生可能性に関する研究」	西村　卓也 （京大防災研）	2026 年 7 月 28 に発生した熊本地震（M7.1）は、10 年前の熊本地震（M7.3）でも破壊した日奈久断層の隣接区間で発生しました。また、2024 年能登半島地震（M7.6）は、能登半島北岸断層帯や富山トラフ西縁断層の複数区間が同時に破壊したと考えられています。このような活断層の複数区間、及び隣接する断層が連動や連鎖する大地震の発生可能性を評価することは、大地震が引き起こす被害予測や災害リスク評価に繋げるために必要不可欠です。本研究課題では、連動型内陸地震の発生可能性を評価するために、地震・測地学的な観測研究、地形・地質・歴史・考古などの古地震学的研究、数値シミュレーションに基づく応力蓄積過程などの研究を進めることを目指します。

2027－K－1－2－8 重点推進研究 （特定型） （その 8） 「首都圏下におけるプレート構造モデルの構築」	蔵下 英司 （東大地震研）	首都圏下では、フィリピン海プレートが陸側プレートと太平洋プレートとの間に沈み込むという複雑なプレート配置が形成されています。フィリピン海プレートの沈み込みに伴い、首都圏西部では、伊豆-小笠原弧の島弧地殻が本州弧と衝突し、「伊豆衝突帯」を形成しています。また、首都圏北東部では、フィリピン海プレートが太平洋プレートと接しています。このような複雑なプレート構造を高い精度で把握することは、首都圏下におけるプレートの運動を理解する上で重要であるとともに、首都圏で発生する地震の発生メカニズムを解明するためにも必要不可欠です。本研究課題では、地震観測データに基づき、首都圏下のプレート構造モデルの構築を進めます。さらに、得られるプレート構造モデルを地震活動や発震機構解、大正関東地震時の滑り量分布等と比較することで、地震発生域における構造の特徴やプレート境界すべり特性を規定する構造要因の把握を目指します。
2027－K－1－2－9 重点推進研究 （特定型） （その 9） 「地震に起因する多様な人的被害の予測モデルの構築」	西野 智研 （京大防災研）	地震に起因する人的被害の予測は地震リスク評価の重要な要素である。地震に起因する人的被害には、地震動による建物の倒壊や家具の転倒による圧死・閉じ込め・負傷や津波による溺死など、地震動や津波が直接的な要因となって生じるものだけでなく、避難先（避難所だけでなく、津波からの垂直避難で使用される屋内外の一時避難場所やライフライン途絶下での在宅避難なども含む）での暑熱や寒冷による健康への影響やその他の身体的負担による疾病による死亡など、間接的な要因により生じるものも含まれる。しかし、これらの中には、近年になって問題が認識されたため理解が十分でなく予測手法が存在しないものや、予測手法が既に提案されているものの合理性が確保されていないものもあり、依然として検討すべき課題が多く存在する。本研究では、事前の地震リスク評価において多様な側面を有する人的被害の軽減対策を総合的かつ定量的に議論できるようにするため、人的被害の個々の側面について予測手法を開発または高度化するための研究を行います。